



2025年 新年のご挨拶

青森県農協青年部協議会の活動につきましては、平素より多大なるご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、近年の農業を取り巻く情勢は、少子高齢化による担い手不足、また、世界的な気候変動や度重なる自然災害など、我が国の食料・農業・農村は、かつてないほど厳しさを増しております。

特に、生産現場においては、生産資材価格の高止まりが続いているものの、その生産コスト上昇分の価格転嫁が進まず、農家経営を圧迫しております。

しかし、我々は、情勢が厳しいからといって、決して悲観することなく、日本の農業のため、本県の農業のため、地域の農業のため、力を尽くしていく所存です。

そのため当協議会では、現在、これまで諸先輩方が手掛けた「ポリシーブック」をさらに具体化させるための「政策提言書」の作成に取り組んでおります。

この提言書の作成にあたっては、まずは、自らの地域、生産現場では何が課題となっており、何が足りないのかを改めて洗い出し、課題共有することから始めました。また、課題解決にあたっては、暗に行政等に頼るのではなく、まず、「自分たちに何ができるのか」という自助を中心に、それでもできないことは、「ＪＡや地域とともに取り組む」という共助、それでもどうにもならない課題については、「国をはじめとする行政に要望する」という公助の体系で作成しております。

まずは、この取組みを当協議会で進め、将来的には各単組においても課題の共有を図り、地域に合った解決策を探っていければと考えております。

我々青年部員は、日本の食料生産を担うという非常に重要な役割を果たしていると同時に、我々がこの国の食を支えているという自負があります。

食料確保に困ることがないよう、引き続き、安定した食料をしっかりと生産するとともに、誰もが希望をもって農業ができる未来のため、自分たちができることを一つ一つ積み重ねてまいります。

青森県農協青年部協議会
委員長 斗 沢 正 和

絆 2 目 次 K I Z U N A C O N T E N T S

巻頭言	1	経営の窓口	11
フラッシュ	2	組織農政通信	14
インフォメーション	4	ＪＡ八戸NEWS	15
東北農政局通信あおり	9	輝き・部会のチカラ	16
実践農業者支援	10	新風	17

フラッシュ



JA青森

新年に向けた餅作り (12/24)

青森農協女性部東地域女性部は、JA平内支店で正月用の餅作りを行った。この餅は、予約注文をした方と、12月27日に県農協会館で行う農林水産物歳末市に出品する目的で作られた。

もち米は13俵仕入れ、餅つき機で餅を作った後、全て女性部員の手作業で作られた。一番人気は切り餅のミックスで、白い餅とヨモギを加えた緑色の餅が5個ずつ袋詰めされたもの。

冬に咲く桜 弘前市へ啓翁桜贈呈 (1/21)

JAつがる弘前の丸岡義昭常務と、花き部会の山形正人部会長は、弘前市役所を訪れ、櫻田宏市長に啓翁桜を贈呈した。同部会は、市役所を訪れた市民に一足早い春を届けようと毎年贈呈している。

啓翁桜は、12月頃に収穫した枝を18度に保ったJAの促成室で温め、つぼみがピンク色になった頃に首都圏へ出荷する。玄関等の低温の場所では1カ月ほど花が楽しめる。

JAつがるにしきた



雪害注意しながら剪定を (1/15)

JAつがるにしきたつがるりんご部会は、つがる市の園地で「丸葉りんご剪定講習会」を開き、生産者約50人が参加した。

県りんご剪定士会から講師を招き、剪定実演を行った。また、西北地域県民局の担当は「本年の花芽の着生程度は少なめ。積雪深は平年の3倍、園地に辿り着けない生産者が多い現状。事故のないよう、樹上の雪下ろしや枝先の抜き上げ・掘り上げを行ってほしい」と話した。



JAつがる弘前

追われる除雪作業 (1/7)

JAごしよつがる管内では年末から大雪が続ぎ、平年を大きく上回る積雪になっている。

JAの各施設では、雪によりガラスが割れる等の被害が発生している。JA所有の農業用ハウスにも多くの雪が降り積もり、倒壊の恐れがあるため、職員が除雪作業を行った。7棟ある農業用ハウスに積もった雪を、約20人の職員が、雪に足をとられながら手作業でかき出した。



JA相馬村



融雪促進剤 ドローンで散布 (1/22)

JA相馬村は、肥料メーカーと協力し、ドローンでの融雪促進剤の散布試験を行った。

散布試験を行った管内の園地でも記録的な大雪に見舞われ、積雪量は1畝を超えた。ドローンを使い融雪促進剤5種類を10畝当たり2袋ずつ散布した。試験は、散布時間を計測し、手の散布より省力化につながることを確認した。

JA津軽みらい



豪雪対策本部を設置（1／10）

JA津軽みらいは、県内の積雪が例年を上回るペースであることから、「令和6年度豪雪対策本部」を本店に設置した。

同JA管内では、リンゴ樹の枝折れやパイプハウス等が倒壊する被害が発生。今後も被害の拡大が予想されることから、情報収集や被害防止と対策支援のため設置。リンゴ園地等の消雪遅れによる春作業の遅れも懸念され、最初の支援対策として融雪剤購入費の一部助成を行う。



JAゆうき青森

初荷出立式 安全輸送願い出発（1／6）

JAゆうき青森は、東北町の本所営農センターで初荷出立式を行った。

開式にあたり天間一博組合長は「農家のためJAと事業者が一体となって安全輸送に取組んでいきたい」とあいさつ。参加者一同で安全輸送を祈願し、管内産のナガイモやニンニク等を積載したトラック3台が「初荷」の旗を掲げ、関東・中京方面へ出発した。

JA十和田おいらせ



ソラマメ鉢上げ盛ん 6月出荷に向け健苗育成（1／20）

JA十和田おいらせ管内で、ソラマメの鉢上げ作業が行われている。播種は1月中旬に行われ、5日ほどで移植が始まった。生産者は需要が高まる6月の良品質・安定出荷に向けて、健苗育成に力を入れる。

育苗トレーで発根させた種子は、根が5ミリの伸びたら移植する。伸びすぎると根折れや活着不良の恐れがあるため、移植タイミングの見極めが重要。

JAおいらせ



育てた藍で藍染めに挑戦（1／15）

JAおいらせ女性部三沢支部は、藍染め教室を開き、同部員8人が参加した。

藍の葉は2023年に女性部役員5人が栽培し、収穫、乾燥させたもの。大鍋で煮出し、こす作業を3回繰り返し、抽出した色素に、各々が衣類やタオルを浸して取り出す。初めは黄緑色だったが空気に触れ酸化するにつれて、徐々に鮮やかな藍色に変わった。



JA八戸

野菜生産販売検討会（1／15）

JA八戸野菜総合部会は、2024年度JA八戸野菜生産販売検討会を八戸市で開催し、市場関係者、生産者等117人が参加した。

検討会では、市場担当が24年度の市場情勢を説明し、JA販売担当がトマト、ミニトマト、キュウリ、ピーマン、豆類の今年度の販売実績、25年度の販売計画を発表。ガンバロー三唱を行い、出席者全員が一丸となって目標達成を誓った。

新規就農者交流会（津軽地区）

JA青森中央会は1月17日、つがる市で新規就農者交流会を開いた。新規就農者間の交流を図ることを目的とし、津軽地区の新規就農者7人が参加し、先輩農家の事例発表や参加者同士の意見交換を行った。

先輩農家の事例発表では、JAごしょつがる野菜振興協議会の奈良誠祐会長が、自身の経験の中で苦労したこととその対処法を発表した。

奈良会長は「わからないことやイメージできないことはJA職員や仲間に相談する」とアドバイスし、相談できる仲間づくりの重要性を伝えた。

意見交換会では、栽培地区も品目も異なる参加者が、普段抱える不安や課題等を書き出し、先輩農家も含めた参加者同士で対処法を共有した。

（P10に関連掲載）



▲自身の体験談を発表する奈良会長

「乃木坂46と国消国産を学ぼう！」クイズキャンペーン

「国消国産」の考え方や、食・農の現状について分かりやすく楽しみながら学ぶことを目的に、「乃木坂46と国消国産を学ぼう！」クイズキャンペーンを令和7年3月3日まで実施しています。

特設ウェブサイトに掲載するクイズに正解すると、「能登牛500g（約10,000円相当分）」が当たる抽選に申し込みできます（当選者数は第3弾100名）。また、乃木坂46の特典画像を閲覧可能になります。



詳細はこちら



行事（2／10～3／10）

2月

- 10日 総務担当常勤理事会議（県農協会館）
- 12日 県参協定例会（県農協会館）
- 13日 常勤監事研修会（青森市新町キューブ）
- 17日 非常勤理事研修会（アップルパレス青森）
- 19日 認知症サポーター養成講座（県農協会館）
- 26日 県議会農林水産委員との意見交換会（県庁）

3月

- 3日 監事監査研修会（アップルパレス青森）
- 4日 県JA女性協 定例理事会（県農協会館）
- 10日 定例理事会、県農協農政対策常任委員会（県農協会館）
- 10日 県JA協議会 JA常勤役員情報交換会（ホテル青森）

第49回「ごはん・お米とわたし」

作文・図画コンクール（作文部門） 内閣総理大臣賞

第43回青森県「ごはん・お米とわたし」

作文・図画コンクール（作文部門） 青森県知事賞

当たり前の

ご飯のありがたさ

浦町中学校（青森市）

二年 若宮 遙希



小学校三年生の冬、僕が人生で初めてお米を研いだ日、弟が入院した。当時の僕は、父の転勤先である仙台市に住んでいた。小学校一年生の弟は母親に注意されながらも、寒い冬の中、毎日短パンで登校していた。そんな日々が続いた時、弟は突然高熱を出し、病院に行く、インフルエンザと肺炎にかかっていた。そして緊急入院することになった。病院は親が二十四時間付き添う必要があった。

児童館のお迎えに間に合わないと言われ、母から連絡が入ったようで、僕は一人で児童館から家に帰った。誰もいない家の鍵を一人で開け、真っ暗な部屋に電気をつけ、わざと大きな音を出してテレビをつけた。病院から一旦帰ってきた母に、

「僕にできること何かある?」と聞くと、

「お米研いでくれたら嬉しいけど…」

「うん、できるよ!」今、思えばなぜできると言ってしまったのだろう。忙しい母と苦しんでいる弟の為に何か僕にもできることがないだろうかと思っていたからだろう。

「ありがとう。助かる」と言い残し、慌ただしく買い物に行ってしまった。当時、スマホもなく自分で調べることもできなかった僕は、母のお米を研いでいる姿を思い出し、研ぐことにした。

お米はカップに三回分（三合）。家庭科で「すりきり一杯」を習った時の僕は、適当に山盛り三回分のお米を取り、そのお米と水を釜に入れ、研いでみた。母の研ぶような「ジャッ、ジャッ」という音がしない。水が多すぎると気づき、ジャーっと水を捨てたら、お米も勢いよくたくさん出てきてしまった。今度は少なめ

の水で研いでみると「ジャッ、ジャッ」という音になり安心した。一体これは何回やるのだろうか。とにかく何度も研いでは水を入れて、捨てて研いでを繰り返した。三十分は経っただろうか。十回以上やっても水には少し白い色がついてくる。（これ、いつまでやるのかな）いつまでも少し濁る水を見て、真冬の台所で冷たい水で手が真っ赤になり、水を流す度にこぼれていくたくさんのお米を見ながら、僕の目からも涙がこぼれた。

母がやっと買い物から戻り、僕の姿を見た時、僕の冷たい手を母は両手で包んでくれた。

「ありがとう、ごめんね。」と泣きながら包んだ母の手も僕と同じくらい冷たかった。なぜ、母は泣いているのだろうか。もしかして、弟の具合が悪いのだろうか。怖くて聞けないまま、頭の中でぐるぐる考えていた。

「ちゃんと教えてなかったのに、よくできたね。さ、炊けるまでの間にお風呂に入って。」

母が買ってきたそうざいと僕の初めて炊いたご飯で食べた二人だけの晩ご飯。いつも父といるさい弟がいる食卓が今日はシーンとしている。お米はいつもより固くておいしくなかったが、母は「おいしくできたね」と言った。ご飯がおいしくなかった理由は他にもあることは当時の僕でもわかっていた。

弟の入院は七日目に突然終わった。入院中だった青森の祖母が亡くなったのだ。弟の病院に事情を説明し、安静にすることを条件に慌ただしく退院し、青森に向かった。祖母の死に目に会えなかった僕たちは、疲れと悲しみでいっぱいだった。こんなに悲しい時でもお腹は減った。誰かが用意してくれていた塩おにぎりを食べた。こんな時でもおにぎりをバクバク食べている弟を横目で見ながら、食欲が出た弟を見て嬉しく思った。久しぶりに家族揃って食べたおにぎりはとてもおいしかった。家族四人が当たり前ではなかった七日間を経て、当たり前前に食べられるご飯のありがたさとおいしさを知った。

今は時々手伝いでお米を研ぐ。お米を研ぎながら、僕は当たり前前のご飯のありがたさを時々思い出している。これからもおいしいご飯を毎日食べられますように。

JAバンクアプリ プラスをダウンロードし、各種手続をもっと気軽に！

JAバンクでは、2024年8月19日より個人のお客様向けに、スマホアプリ「JAバンクアプリ プラス」のサービス提供を開始した。

JAバンクは2019年12月より口座残高や入出金明細等を気軽に確認できる「JAバンクアプリ」のサービスを提供しているが、新たにサービス提供を開始した「JAバンクアプリ プラス」は新たに振込・振替や住所・電話番号変更などをいつでも手続きできる機能を搭載。本アプリでは来店や郵送でお手続きする時間がない方でもより一層便利にご利用いただくことが可能。JAの普通貯金口座（総合口座含む）のキャッシュカードをお持ちのお客様であれば、来店不要かつ簡単な初期登録のみですぐに利用開始可能。

主な機能は以下のとおり。

（1）振込・振替

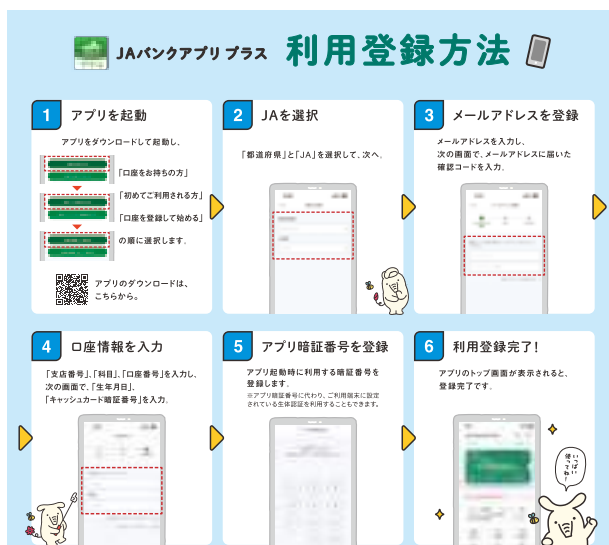
事前にお申込みいただいたご利用口座（普通貯金、貯蓄貯金、当座貯金）から、JAを含む全国のJA本支店および他行の鉱区内本支店への振込・振替がご利用可能。

（2）住所・電話番号変更

来店・郵送不要で自宅住所の変更、電話番号の変更が可能。

（3）税金・各種料金の払込み（ペイジー）

Pay-easy（ペイジー）マークのある請求書・納付書のお支払いが可能。



行事（2/10～3/10）

農林中央金庫

2月

12日 JAバンク青森運営協議会専門委員会（県農協会館）
18日 反社会的勢力対応研修（WEB）

3月

7日 青森県JA信用担部課長会議（WEB）

農協電算センター

3月

10日 定時取締役会（県農協会館）

第20回青森県JA農産物検査員鑑定協議会

JA全農あおもりと青森県JA農産物検査協議会は1月9日、青森市の県農協会館で「第20回青森県JA農産物検査員鑑定競技大会」を開いた。

平成17年から農産物検査員の技術の研鑽と維持・向上を目的として開いている。今年度は、県内8JAから36人が参加した。

競技は水稲うるち玄米及びもち玄米40点を30分以内で等級判定し、400点の持ち点から等級相違と時間超過による減点方法により採点した。

最優秀賞にはJA津軽みらいの村上靖幸さん、優秀賞にはJAごしょつがるの古川和寿さんがそれぞれ選ばれ、県代表として3月11日に千葉県で開催される「JAグループ全国農産物鑑定会」へ出場する。

入賞者は次の通り。かつこ内はJA名。
▽優良賞＝沼山聡(十和田おいらせ)、對馬恭平(ごしょつがる)、小村智康(青森)



▲鑑定を行う村上さん④

青森米PRイベント「青森米フェア」を開催

JA全農あおもりは1月18日と19日に青森米PRイベント「青森米フェア」を、東京都江東区アーバンドッグららぽーと豊洲にて開催した。

イベントでは、青森県産米の「青天の霹靂」「はれわたり」の精米と、パックご飯セット(180g×3種入り)を販売した。購入した方を対象に、「青天の霹靂」エコバッグのプレゼントや、アンケートに参加いただいた方へオリジナルグッズのプレゼント、また「青天の霹靂」「はれわたり」の試食も実施した。

試食をした方々からは、「それぞれのお米の違いがよくわかる」「どちらもおいしい」と好評だった。

また、会場では、お米大使による「お米大使ダンス」の披露や、クリーンライスレディあおもりによるPRも行われ、多くの来場者で会場はにぎわっていた。



▲お米を販売する担当者ら

牛乳ごっくんキャンペーン第3弾抽選会

JA全農あおもりと青森県牛乳普及協会は1月27日、青森市の県農協会館で、令和6年12月1日から令和7年1月19日まで実施した令和6年度第3回目となる「牛乳ごっくんキャンペーン第3弾」のプレゼント抽選会を開いた。合計10,787件の応募の中から、当選者210人を決定した。

当選者には賞品として、ブルーノマルチスティックブレンダーを10名様、青森県産米「はれわたり」5kgを50名様、飲むヨーグルトセットを100名様、また外れてしまった方にもダブルチャンス賞として50名様にオリジナルグッズをプレゼントする。

県牛乳普及協会の担当者は「今年度も1年を通してたくさんの応募があった。キャンペーンをきっかけに県産牛乳を飲んでもらえたら」と話す。



▲抽選する担当者ら

行事(2/10～3/10)

2月

19～20日 購買担当者窓口研修会(県農協会館)

3月

10日 運営委員会(県農協会館)

共済事業担当常勤理事会議の開催

JA共済連青森は、12月11日青森県農協会館で「共済事業担当常勤理事会議」を開催した。

開催にあたり、沼田本部長は日頃から共済事業全般に尽力いただいていることと、推進活動に取り組んでいただいていることに対して感謝の言葉を述べ、挨拶とした。

本会議では、11月21日に開催した「共済担当部課長会議」と同内容の案件にて説明・協議が行われた。



▲挨拶をする沼田本部長

令和6年度JA共済全国小・中学生書道・交通安全ポスターコンクール入賞者決定

JA共済連は、令和6年11月22日に書道コンクール、11月27日に交通安全ポスターコンクールの全国審査会を開催し、書道は計8点（条幅の部2点・半紙の部6点）、交通安全ポスターは計2点の受賞が決定した。

両コンクールは、共済事業の理念である相互扶助と思いやりの精神を、次世代を担う小・中学生へ伝えていくとともに児童・生徒の書写教育に貢献することを目的に「書道コンクール」を、また、児童・生徒の図画工作・美術教育の高揚を図り交通安全思想を幅広く社会に訴えることを目的に「交通安全ポスターコンクール」を開催しており、地域貢献活動（文化支援活動）の一つとなっている。

今年度で、書道コンクールは68回目、交通安全ポスターコンクールは53回目の開催を迎えた。

▼応募状況

部門	応募学校数	応募作品数
条幅の部	11,893校	70,952点
半紙の部	17,256校	919,299点
交通安全ポスターの部	5,820校	80,260点

全国コンクールは、応募作品の中から各都道府県コンクールにおいて優秀な成績をおさめた書道839点（条幅の部：416点、半紙の部：423点）、交通安全ポスター352点の審査が行われた。書道コンクールでは、高木聖雨氏（日本芸術院会員・日展理事）をはじめとする審査員が審査を行い、交通安全ポスターコンクールでは、中島祥文氏（多摩美術大学名誉教授・アートディレクター）をは

じめとする審査員が厳正なる審査を行い、入賞作品が決定された。

青森県からは、書道半紙・条幅の部、交通安全ポスターの部、最優秀賞計27点が全国コンクールへ出展された。書道の部は、全国共済農業協同組合連合会会長賞・金賞1名、銀賞1名、銅賞3名、佳作3名が入賞した。交通安全ポスターの部は、全国共済農業協同組合連合会会長賞・佳作2名が入賞した。

受賞した皆さんおめでとうございます。

●書道の部

〈条幅の部〉

- ・全国共済農業協同組合連合会会長賞・佳作
八木橋 春樹さん（弘前市立桔梗野小学校1年）
- ・全国共済農業協同組合連合会会長賞・佳作
野呂 瞬翔さん（板柳町立板柳南小学校5年）

〈半紙の部〉

- ・全国共済農業協同組合連合会会長賞・金賞
坂井 萌彩さん（弘前大学教育学部附属小学校4年）
- ・全国共済農業協同組合連合会会長賞・銀賞
葛西 龍さん（黒石市立中郷中学校1年）
- ・全国共済農業協同組合連合会会長賞・銅賞
藤田 和花さん（五所川原市立栄小学校1年）
- ・全国共済農業協同組合連合会会長賞・銅賞
猪股 愛結さん（黒石市立六郷小学校6年）
- ・全国共済農業協同組合連合会会長賞・銅賞
工藤 莉世さん（黒石市立黒石中学校2年）
- ・全国共済農業協同組合連合会会長賞・佳作
平川 誠人さん（田舎館村立田舎館小学校5年）

●交通安全ポスターの部

- ・全国共済農業協同組合連合会会長賞・佳作
工藤 結仁さん（青森市立筒井小学校3年）
- ・全国共済農業協同組合連合会会長賞・佳作
向中野 紗衣さん（青森市立造道小学校5年）



全国共済農業協同組合連合会
会長賞・金賞

坂井 萌彩さんの作品
（弘前大学教育学部

附属小学校4年）

行事（2/10～3/10）

2月

- 13日 拡大共済担当部課長会議（ホテル青森）
- 18～19日 仕組改訂・事務改善事項研修会（オンライン）

3月

- 10日 運営委員会（県農協会館）

青森県の令和5年農業産出額及び生産農業所得

農業産出額は3,466億円、東北1位、全国7位

令和5年青森県の農業産出額は、3,466億円となりました。前年に比べて298億円(9.4%)増加し、9年連続で3,000億円を上回りました。東北では20年続けて1位となり、全国順位も7位となっています。

青森県の農業産出額上位10品目をみると、りんご、にんにく、ごぼうは全国1位、やまのいもは2位、ブロイラーは4位となっています。

部門別の構成割合をみると、青森県は主要部門でバランスが取れた構成となっています。

生産農業所得は、前年に比べて78億円(6.8%)増加し、1,226億円となりました。

表 農業産出額上位10品目(青森)

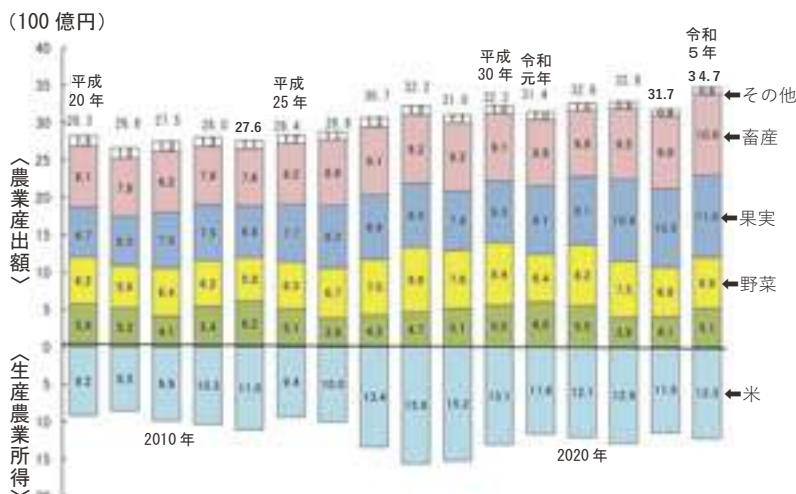
順位	品目	青森		全国順位
		産出額 億円	構成割合 %	
	農業産出額計	3,466	100.0	7 (7)
1	りんご	1,033	29.8	1 (1)
2	米	511	14.7	11 (12)
3	豚	307	8.9	8 (11)
4	鶏卵	264	7.6	13 (8)
5	ブロイラー	233	6.7	4 (4)
6	肉用牛	165	4.8	13 (14)
7	やまのいも	158	4.6	2 (2)
8	にんにく	116	3.3	1 (1)
9	生乳	87	2.5	16 (16)
10	ごぼう	78	2.3	1 (1)

資料：農林水産省『生産農業所得統計』

注：1 順位付けは、秘密保護上統計数値を公表していない品目を除いたものであり、原数値(100万円)により判定した。

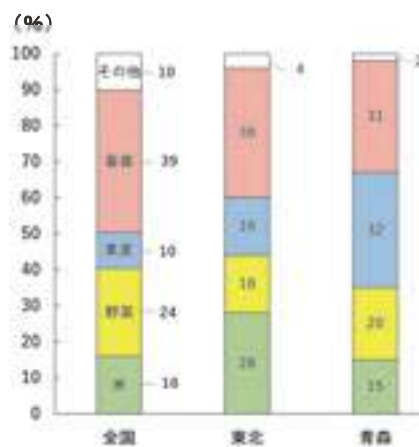
2 () は前年の全国順位である。

図1 農業産出額及び生産農業所得の推移(青森)



資料：農林水産省『生産農業所得統計』

図2 農業産出額の部門別構成割合



資料：農林水産省『生産農業所得統計』

注：1 全国は、都道府県別農業産出額の合計値の構成割合である。

2 表示単位未満を四捨五入したため、合計値と内訳の計が一致しない場合がある。



実践 農業者支援

新規就農者の仲間づくりを支援 ～ＪＡグループ青森 新規就農者交流会（津軽地区）～

１．はじめに

本会が実施した就農５年以内の新規就農者（新規参入、親元就農、雇用就農）を対象としたヒアリング調査では、「同じ地域に相談できる農家がない」や「同世代の農家とつながりを持つ機会が欲しい」といった声が多く聞かれました。

そのため、本会では去る１月１７日に新規就農者の仲間づくりを支援するとともに、課題を共有する場として「ＪＡグループ青森 新規就農者交流会（津軽地区）」を開催しました。今回はその内容の一部を紹介します。



▲意見交換の様子

２．実施内容

（１）先輩農家の講演

講演者：①ＪＡごしょつがる 野菜振興協議会 会長 奈良 誠祐 さん

②株式会社 SATO FARM 代表取締役社長 佐藤 恵美 さん

上記２名には就農時に苦労したことや新規就農者へのアドバイスをご講演していただきました。

（２）意見交換

新規就農者が現在抱える悩みや課題を付箋に記入し、その課題に対して他の新規就農者や先輩農家が実践する対処法について共有しました。

○農業労働力関係	○メンタル面
・ 農業労働力を確保する手段はある？ ⇒ハローワークや人材派遣会社で確保	・ 作業の終わりが見えず不安になったときの対処法は？ ・ 気分転換の方法は？ ⇒趣味や旅行の予定を予め立て、間に合わせるように作業する ⇒無心で作業する
○私生活面	○資金面
・ 近隣農家とのうまい付き合い方は？ ⇒身になる話は吸収、嫌な話は聞き流す	・ 補助金の申請や書類の整理が面倒 ⇒補助金ごとでファイルを作成し、領収書なども分けて保存 ⇒補助金がもらえると信じて面倒でもやる
○研修	○農業以外の収入や冬期の収入
・ 現地研修に行くとわからない単語が多い ⇒自分用に録音し、作業中に聞き流す ⇒わからない単語をメモして後ほど検索する ⇒仲の良い農家に聞く	・ 農業以外に仕事してる？ ・ 雇用できる仕事ある？ ・ 冬期に収入ある？ ⇒１２月から選定作業している ⇒保存技術を駆使し春まで袋詰めを行っている ⇒フリーランスでイラストレーターをしている

（３）ＪＡグループ青森、県民局からの情報提供

ＪＡグループ青森、西北地域県民局から新規就農者に関連する情報提供をしました。

３．まとめ

意見交換で対策が上がらなかった課題もいくつかあります。すべての課題を解決することは困難ですが、ＪＡが支援していくことで新規就農者がＪＡの必要性を理解するきっかけとなります。

新規就農者が抱える課題の対策を検討していくため、新規就農者との交流を今後も継続して参ります。

（中央会 農業対策部）

経営の窓口

令和6年度 J A職員資格認証試験結果

1. 各種別の受験状況と試験結果

今年度のJ A職員資格認証試験の結果がまとまりましたので報告します。

初級・中級・上級の受験者総数は240人で、前年度の277人から37人減少しました。合格者数は134人で、前年度の172人から38人減少しました。特に中級の合格者・合格率が減少しました。

各種別の内容については次のとおりです。

(1) 初級

受験者は60人で、前年度から19人減少しました。科目別の平均点は、昨年同様「J A基礎」と「J A簿記基礎」で全国平均を下回ったものの、「農業情勢基礎」では県平均が全国平均を上回りました。合格者は45人で、前年度から13人減少しましたが、合格率は75.0%と前年度から1.6ポイント増加しました。

(2) 中級

受験者は93人で、前年度から2人減少しました。科目別の平均点は、すべての科目で全国平均を下回りました。合格者は46人で、前年度から15人減少し、合格率も49.5%と前年度から14.7ポイント減少しました。

(3) 上級

受験者は95人で、前年度から7人減少しました。科目別の平均点は、昨年同様「J A経営管理・農業協同組合論」と「J A人事管理」で全国平均を下回ったものの、「J A財務・管理会計」では県平均が全国平均を上回りました。合格者は50人で、前年度から3人減少しましたが、合格率は52.6%と前年度から1.1ポイント増加しました。

※ 詳細は、下表「種別」試験結果概要をご覧ください。

2. 受験目的の再確認と人材育成の強化を

本稿には記載していませんが、J A別の合格率をみると中級と上級で50%を下回るJ Aがありました。当試験の目的は、J Aに従事する職員の資質を高め、技能を磨くとともに職員の地位の向上を図ることにあります。

合格者を多く輩出することは、J AにとってJ A全般の知識を有し、J Aのため、組合員のため、職員のため、あらゆる立場に立って対応できる職員を育成することにつながります。

受験する職員にとっても、各種別の科目は階層別に求められる知識であり、業務を遂行するにあたって必要な知識の習得になります。また、当試験に合格することは、合格一時金・毎月の手当の支給や昇格基準への反映などメリットも多いと思われます。

各J Aにおいては、人材育成の強化のため、各試験の合格目標を設定するなど、資格取得に向け引き続き取組んでいただきたいと思います。

(中央会 経営対策部)

「種別」試験結果概要

○初級 「科目別平均点等」 (点、人)

	本県平均	全国平均	最高点	最低点	60点以上取得者
J A 基礎	74.4	76.0	98	43	45
農業情勢基礎	63.4	63.1	91	37	41
J A 簿記基礎	71.6	69.6	100	24	40

「受験者数等」 (人、%)

	R 6	R 5	R 6-R 5
受験者数	60	79	△ 19
合格者数	45	58	△ 13
合格率	75.0	73.4	1.6
科目合格者数	8	11	△ 3

○中級 「科目別平均点等」 (点、人)

	本県平均	全国平均	最高点	最低点	60点以上取得者
J A事業論・協同組合論	67.0	68.6	96	25	60
農 協 法	60.9	61.0	98	30	59
J A 簿記会計	57.9	58.6	97	24	35

「受験者数等」 (人、%)

	R 6	R 5	R 6-R 5
受験者数	93	95	△ 2
合格者数	46	61	△ 15
合格率	49.5	64.2	△ 14.7
科目合格者数	22	19	3

○上級 「科目別平均点等」 (点、人)

	本県平均	全国平均	最高点	最低点	60点以上取得者
J A経営管理・農業協同組合論	66.5	67.1	91	34	59
J A財務・管理会計	57.1	55.9	93	12	42
J A人事管理	66.6	68.2	92	32	58

「受験者数等」 (人、%)

	R 6	R 5	R 6-R 5
受験者数	95	103	△ 8
合格者数	50	53	△ 3
合格率	52.6	51.5	1.2
科目合格者数	21	25	△ 4

令和6年度認証試験合格者名簿

初級（45人）

JA名	氏 名
青 森	小 野 詠美子
青 森	山 田 遥 香
つがるにしきた	柏 崎 佳 乃
つがるにしきた	工 藤 茜
つがるにしきた	渋 谷 壮 楽
つがるにしきた	鈴 木 啓 太
つがるにしきた	高 橋 諒
つがるにしきた	間 山 友 博
つがるにしきた	山 下 麗緒菜
ごしょつがる	久米田 千 輝
ごしょつがる	古 川 修 太
ごしょつがる	高 橋 広 明
つ がる 弘 前	阿 保 はづき
つ がる 弘 前	古 川 愛 花
つ がる 弘 前	今 秀 真
つ がる 弘 前	外 館 瞳
つ がる 弘 前	平 山 銀
つ がる 弘 前	渡 辺 美 咲
相 馬 村	工 藤 涼 大
相 馬 村	清 野 晴 菜
相 馬 村	蒔 苗 陸
相 馬 村	三 上 詩 織
津 軽 み ら い	北 川 愛
津 軽 み ら い	古 川 竜 我
津 軽 み ら い	相 馬 海 吏
津 軽 み ら い	奈 良 椎 菜
津 軽 み ら い	長谷川 溪

中級（46人）

JA名	氏 名
青 森	佐 藤 尚 彰
青 森	鹿 内 勇 人
青 森	菅 原 溪 花
青 森	田 中 紗 貴
つがるにしきた	小笠原 宰
つがるにしきた	尾 野 文 紀
つがるにしきた	木 村 公 耀
つがるにしきた	工 藤 美 優
つがるにしきた	長谷川 多可子
ごしょつがる	長 内 貴 志
ごしょつがる	加 藤 麗 樹
ごしょつがる	野 呂 裕 太
つ がる 弘 前	阿 保 海 心
つ がる 弘 前	天 内 太 陽
つ がる 弘 前	佐 藤 主 理
つ がる 弘 前	進 藤 徳 宗
つ がる 弘 前	高 木 美 穂
つ がる 弘 前	成 田 唯 奈
つ がる 弘 前	福 田 翔
相 馬 村	石 田 有希子
相 馬 村	田 村 慎 平
津 軽 み ら い	一 戸 珠 菜
津 軽 み ら い	木 村 ひかり
津 軽 み ら い	工 藤 由 真
津 軽 み ら い	工 藤 琉 世
津 軽 み ら い	幸 山 愛 凜
津 軽 み ら い	佐 藤 光 翼

上級 (50人)

JA名	氏 名	JA名	氏 名	JA名	氏 名
津 軽 み ら い	山 口 真 人	青 森	佐々木 明 奈	津 軽 み ら い	小田桐 玲
十和田おいらせ	浅 田 幸 輝	青 森	佐々木 千 春	津 軽 み ら い	岸 里 穂
十和田おいらせ	鈴 木 康 平	つがるにしきた	荒 関 真奈美	津 軽 み ら い	木 村 優 太
十和田おいらせ	千 田 陸 翔	つがるにしきた	江 良 博 紀	津 軽 み ら い	工 藤 秀 一
十和田おいらせ	横 濱 侑 大	つがるにしきた	熊 谷 太 一	津 軽 み ら い	黒 澤 純 子
ゆ う き 青 森	VU DINH GIANG	つがるにしきた	神 博 文	津 軽 み ら い	小 林 和 祐
お い ら せ	遠 藤 新太郎	ごしょつがる	越後谷 星 斗	津 軽 み ら い	齋 藤 美 優
お い ら せ	東 将 也	ごしょつがる	長 内 敬 士	津 軽 み ら い	佐 藤 諒
お い ら せ	三 上 彩 乃	ごしょつがる	渋 谷 清 孝	津 軽 み ら い	土 岐 光太郎
八 戸	酒 田 夕 葵	ごしょつがる	澁 谷 大 知	津 軽 み ら い	長 尾 朱 音
八 戸	種 市 良 祐	ごしょつがる	鈴 木 真 希	津 軽 み ら い	成 田 汐 里
八 戸	松 尾 樹々生	ごしょつがる	高 松 大 地	津 軽 み ら い	原 田 瑞 穂
全農あおもり	小 枝 祐 斗	ごしょつがる	堀 内 武 志	津 軽 み ら い	村 上 孝 浩
全農あおもり	今 裕 也	ごしょつがる	三 浦 佑 也	津 軽 み ら い	八木橋 美 央
全農あおもり	今 野 由 彩	ごしょつがる	山 口 里 美	津 軽 み ら い	山 本 芽 美
全農あおもり	佐 藤 滉 士	つ がる 弘 前	秋 元 航 也	十和田おいらせ	織 笠 翔 太
全農あおもり	津 島 勲	つ がる 弘 前	渋 谷 悠 斗	十和田おいらせ	川 村 毅
青 森 中 央 会	高 野 航 希	つ がる 弘 前	白 戸 祐 太	十和田おいらせ	川 村 優 香
青 森 中 央 会	土 岐 禎 渡	つ がる 弘 前	清 藤 奈々子	十和田おいらせ	外 山 賢 仁
		つ がる 弘 前	瀬 川 美 久	ゆ う き 青 森	吹 越 由 梨
		つ がる 弘 前	高 谷 直 仁	お い ら せ	中 村 結 沙
		つ がる 弘 前	田 澤 沙智子	八 戸	田 中 久美子
		つ がる 弘 前	薦 川 恭 平	八 戸	田 村 香 穂
		つ がる 弘 前	鳴 海 莉 歩	八 戸	豊 川 諒
		つ がる 弘 前	安 田 麻 美	八 戸	船 場 良 太

合 格 お め で と う ご ざ い ま す 。

組 織 農 政 通 信

女子○ × J A グループ青森 農作物収穫体験ツアー
～消費者と農家・J A を繋ぎ、食・農への理解を深める～

「女子○」 × J A グループ青森 農作物収穫体験ツアーの概要

J A 青森中央会では、(株) 東奥日報社の協賛イベントで年2回、津軽地区1 J A と県南地区1 J A に協力いただき、(株) 東奥日報社の女子○会員および一般消費者を対象とした、「女子○ × J A グループ青森 農作物収穫体験ツアー」を実施している。

令和6年度の実施報告

【第1回：令和6年9月7日（土）】
J A 青森：トマトの収穫体験



【第2回：令和6年11月2日（土）】
J A ゆうき青森：アビオスの収穫体験



J A との農作物収穫体験ツアー実施の意義

J A との農作物収穫体験ツアーを実施することにより、日常的に接する機会の少ない消費者と農家・J A を繋ぎ、野菜や果物の栽培方法や農家の栽培にかかるこだわりや思い、苦労している点など農家の話を直接聞くことができ、農業や食育に関する興味や理解促進に繋がっている。

また、J A の事業紹介やJ A 施設（選果場等）の見学をツアー行程に組み込むことで、消費者や地域住民の「J A って何をしているところなの？」という疑問を解決し、J A 利用者の増大やファンづくりの役割も担っている。

【J A 青森：J A の事業紹介の様子】



【J A ゆうき青森：選果場施設の見学】



消費者への農業理解の促進に向けて

今年度のツアーをはじめ、これまでのツアーでは、毎回20名の定員を大きく超える申し込みがあり、消費者の食・農への関心の高さがうかがえる。

本会では引き続き、食・農に対する理解促進に向けた取り組みを実施し、消費者と農家・J A を繋ぎ、食・農への理解を深めていきたい。

（中央会 農業対策部）

新鮮なりんご、ゼネラル・レクラークを家族や知人へ

J A 八戸の三戸営農センターは12月7日、「りんご・レクラーク即売会」を開き、会場内は多くの来場者で賑わった。

J A の高品質な果物をより多くの方に知ってもらおう狙いもあり、家庭用や贈答用としてサンふじ、はるかなどのりんごやゼネラル・レクラーク、ながいもなどが特別価格で並んだ。

県内外の親戚やお世話になった知人に贈る目的で訪れた来場者も多く、納得のいく商品を見定めていた。

来場者は「息子に贈るものを買いに来た。レクラークとりんごどちらも大好きなので、両方送ってあげたい」と笑顔で話した。

また、青年部が白菜や大根、ゴボウなども販売し、来場者は家での料理の具材にと、手ごろな価格の野菜を袋いっぱい買い求めていた。



贈答用の品物を見定める来場者

家の光の集い 笑いヨガで笑顔を学ぶ

J A 八戸は1月18日、八戸市のユートリーで第12回家の光の集いを開催し、教育情報誌「家の光」三誌購読者54人が参加した。

家の光の集いは、J A 教育文化活動への理解を深め、元気な地域づくりに役立てていただくため、開催している。

記事活用体験発表では、購読者の三浦愛子さんと川端尚子さんが、印象的だった記事や家の光を参考にした活動などを発表した。

三浦さんは「家の光を参考にした活動として、女性部の講習会で新聞紙の手提げ袋を作った。それを年6回行方軽トラ市で買い物袋として使用し、喜ばれている」と話した。

また、川端さんは「女性部それぞれの活動には家の光の存在が大きい。ものづくりの楽しさを教えてくれたのも家の光であり、作ったものの展示や販売を通して、新たな仲間づくりにも繋がっている」と話した。



講演で笑いヨガを行う参加者

講演では、青森笑いヨガ研究所主宰の津島弘美さんを講師に迎え、「笑顔で人生を生き生きと～笑顔力は幸せ力～」と題して講演。実際に声を出して笑うゲームを通して、笑顔の作り方や笑いがもたらす効果などを参加者に呼びかけた。

最後は購読者へ日頃の感謝を伝えるためのお楽しみ抽選会を行った。

今後も家の光を組合員の教育情報誌と位置づけ、読者の定着化を図りながら交流の場を広げていく。



輝き

JA全農あおもり
やさい部 やさい花き課
かみたに さあや
紙谷 咲彩 さん

●プロフィール

2023年4月から勤務 北海道札幌市 24歳

— 働くきっかけは？

食べることが好きで、小さい頃から食にかかわる仕事がしたいと思っていたことがきっかけです。食の中でも特に農業に興味があり、大学時代に農業体験に参加しました。そこで農産物のおいしさを再発見したとともに、農業の厳しさも学び、農業を支えることができる人材になりたいと思うようになりました。

— 業務内容を教えてください。

やさい・花きの宣伝・価格安定事業などを担当をしています。宣伝業務では青森やさい・花きの魅力を全国に発信できるように企画を考えています。量販店での宣伝に加え、Xアカウント「青森いきいきやさい」等のSNS発信や飲食店とのタイアップなど、様々な場所で青森やさい・花きの宣伝を行っています。

— 働いた感想は？

宣伝の難しさを痛感しています。私はこの業務を通して、ほ場にお邪魔したり、レシピを考えたりしたりする中で青森やさいのおいしさに感動し、ファンになりました。そんな青森やさいの魅力を誰にどのようにすれば伝わるのか、日々考えています。イベントでご来場いただいた方に青森やさいを食べていただき、よい感想をもらえたときは嬉しかったです。

— 仕事をする上で、日頃心がけていることは？

コミュニケーションと体調管理です。わからないことが多いので自分が理解できるまで先輩方のお話をきいて業務に取り掛かるようにしています。

— 特技・趣味は？

特技は雪道で転ばずにダッシュできることです。札幌での学生時代に登下校で鍛えられました。趣味は体を動かしておいしいご飯を食べることです。最近は昨年から始めたスノーボードとたらの子とえにはまっています。

— あなたが自慢できることは？

人見知りしないことです。人とお話しすることが好きなので、自分から話しかけることが多いです。

— 将来の夢は？

快活な人になりたいです。仕事でもプライベートでも前向きに明るく楽しく成長していきたいと思っています。



冬場の 高単価を狙う

「Aつがるにしきた鶴翔ぶどう部会は、部員37人で構成される。「スチューベン」と「シャインマスカット」を栽培し、高品質なブドウ作りに励んでいる。37人全員が「スチューベンの生産者」で、黒系ブドウの栽培に力を入れる。

両品種とも収穫は10月ごろで、収穫後はブドウ用の冷蔵庫で保管。市場流通が少ないクリスマスや年末年始の需要に対応する。JAでは11月から2月ごろまで出荷。前年度の出荷実績は122.5トンで、7515万円売り上げた。

鶴翔ぶどう部会長の高谷晴記さん（71）は、「スチューベン」を栽培して30年。「近年は夜温が下がらず少し着色不良が多いと感じる」と話す。

全国的な気温上昇による黒系ブドウの着色不良を背景に、着色管理を省ける「シャインマスカット」への改植が広がりを見せる中、今こそ黒系ブドウだと考える高谷さん。売り湯での選択肢として、「シャインマスカット」とは味も見た目も異なる黒系ブドウが市場から期待され、店頭での品薄感が広がる冬の時期は高単価が狙える。

同部会では、県やＪＡと一体となり高品質栽培に向け講習会を定期的に開催。高谷さんは「病害虫防除の徹底を行い、収量をアップすることが今後の目標」と力強く語った。



新風

JAおいらせ

6次化、法人化めざす
行者菜の魅力を発信

三沢市の沼田泰希さん（41）は、一昨年に就農した新規就農者。現在は、ゴボウ250畝、キャベツ50畝、ナガイモ30畝の他に、行者菜の栽培を行っている。「ろくのへ行者菜研究会」に所属しており、去年はスーパーで、行者菜の試食販売を行うなど、行者菜の魅力を発信した。

沼田さんは、元々祖母が農業を営んでいたこともあり、せっかくある農地を無駄にしたいくないという気持ちと、元々何かを育てること自体好きだったこともあり、新規就農した。

就農を決意した沼田さんは、農家の仕事を学ぶため、JAおいらせのマッチング事業を通じ、先輩農家の下で経験を積んだ。その後、「あおり能力向上シャトル研修」の研修生となって、営農大学校と先進農家の下を行き来しながら農業の知識と技術を習得した。

沼田さんは今後について、「まだまだ行者菜の魅力を発信のやり方や農作物の全体的な規模の拡大など改良の余地があると思う。ゆくゆくは6次産業化、法人化を目指していけたらと思う」と話した。



規模拡大を目指す沼田さん

後編 編集集

雪深い景色はいつになったら消えてくれますかね！

今回の写真は「生ズワイガニ」です。残念ながら食べる前に撮り忘れたため、食べた後の殻の山盛りをご覧ください。1月3日にお鍋で美味しくいただきました。送ってくれた親戚に感謝です。

皆さんは正月に美味しいものを食べましたか。

それでは皆さん、「SEE YOU ON MARCH!」（一）



ホームページアドレス

- JA青森中央会 <https://www.ja-aomori.or.jp/chuoukai/>
イベントの様子、歳時記、産直・JA情報などをご覧ください。
- JAバンク青森 <https://aomori.jabank.org/>
商品・サービスのご案内のほか、マネーシミュレーションや全国のJAバンクへのリンク等をご覧ください。
- JA全農あおり <https://www.zennoh.or.jp/am/>
生産量日本一のりんご・にんにく・ごぼうをはじめとした農畜産物情報や活動状況、中古農機情報を紹介しております。
- JA共済連青森 <https://www.jakyosai-aomori.jp>
JA共済のご案内のほか、地域貢献活動の取組みを紹介しております。

知る、活かす、つなぐ

～JAグループ情報共有運動～



JAグループの広報・PRは日本農業新聞の広告で。

Q 日本農業新聞



全国約30万部発行。
全国のJAが出資し、農業の専門紙
では唯一の日報紙。
農家組合員とJAグループ、地域を
つなぐ全国メディアです。

Q 日本農業新聞公式サイト



月間ページビュー数約90万。
農業関係者だけでなく、幅広い年代の
ユーザーに閲覧されています。
Yahoo!ニュース、SmartNewsなどから
も多数のユーザーが流入しています。

Q フレマルシェ



全国約25万部発行。
JAのファーマーズマーケットを
中心に配布している消費者向けフ
リーペーパーです。メイン読者層
は30代～60代の女性です。

お問い合わせ先：日本農業新聞広告部

Eメール koukoku@agrinfo.co.jp TEL 03-6281-5810



THE JAPAN AGRICULTURAL NEWS

日本農業新聞

2025年
5月号で

家の光は 創刊100周年

さまざまな特別企画をお届けしていきます

総力大特集

「わたしと家族と台所」



わが家の台所物語

『家の光』と台所
～台所改善運動編～

読者体験手記
「台所の記憶」

5月号
別冊付録



100年分の『家の光』掲載記事から、
よりすぐりの「台所の知恵」をまとめた永久保存版!

お申し込みは
お近くのJAへ

定価(税込)

- 普通月号 629円
- 特別月号(1・4・5・7・9月号) 922円
- 12月特別号 1,027円

JAグループ 家の光協会

〒162-8448 東京都新宿区市谷船河原町11

TEL. 03-3266-9039 <http://www.ienuhikari.net/>

創刊100周年記念

家の光
愛読者謝恩
プレゼント

豪華賞品が
いっぱい!!